

お盆のご案内 ほん お盆を迎えて

日蓮宗 法筵寺

今世こんせ、尊とうとき縁えんありて共ともに暮くらした今いまは亡なき両りょう親しん、亡なき夫おつとや妻つま、亡なき愛あいする我わが子こ、亡なき祖そ父母ふぼをはじめせんぞさまご先祖ねん様いちど。年ねんに一度いちど、亡なき方かた々がたをどのようにお迎むかえしご供養くようしよう

と心こころを寄よせ合あうところからお盆ほんの行ぎょうじ事がはじまります。

【お盆の由来】正式には盂蘭盆うらぼんと言いいます。この行ぎょうじ事は古いにしへくお釈迦しやくか様の在ざい世ぜにさかのぼります。

仏説盂蘭盆経ぶつせつうらぼんきやうに、お釈迦しやくか様の弟子でしで神通力第一しんとうりきだいいちといわれた目連むつれんさまが、ある時、亡なくなつた母ははのことを思い出しその勝かちれた力ちからで靈界りやうがいをながめてみます。すると悲かなしいかな母ははは餓鬼世界がきせかいで苦しんでいました。餓鬼世界がきせかいの苦くるしみしみは倒懸たうけん・とうけん（さかさまにつるす）といい、その苦くるしみしみは耐たえ難がたいほど大きいものです。そこには食物じきじや飲のみみ水みづさえありません。母ははは見る影かげもなく瘦すくせ衰おとろえていました。



母はは思いの目連むつれんさまは、餓鬼世界がきせかいに出でかけ、鉢はちに盛もつたご飯いひを母ははにたむけます。ところが母ははが受け取り口くちに入れようとするとご飯いひは炎えんとなつて燃もえ、食くべることができません。目連むつれんさまは泣なき叫こゑび悲かなしみの涙なみだにくれました。

困まどり果はつた目連むつれんさまはこの事ことをお釈迦しやくか様に話はなされました。するとお釈迦しやくか様は「目連むつれんよ、おまえの母ははの罪つみは深く、おまえの力ちからではどうすることもできない。親おやを思おもう孝こ心の誠まことが天地てんちを動かうごかそうとしても、天地てんちの神かみ々々、四天王神しつてんおうじんをもつてもどうすることもできないであろう」と言いわれました。

「ではどうしたら母ははを救すくうことができるのでしょうか」と尋たずねられました。

お釈迦しやくか様は「目連むつれんよ、母ははを餓鬼世界がきせかいから救すくうには、この世よの勝かちれた僧そうたちの力ちからにあずかるしかないのだ。多くの僧そうが修行しゆぎやうに明あけくれた最終日さいしゆうじつである七月十五日しちがつごじふご日にち、この日にちにご飯いひと様々さまざまな食物じきじ、五種ごしゆの果物くわくぶつ、香油かうあぶら、燭そと台だい、敷物しきぶつ、寝具ねぐ等を高僧こうそう、一般僧いぱんそうすべてに供養くようしなさい。大勢たいせいの僧そうの力ちからの結集けつじつによって、おまえの母はははきつと救すくわれるであろう。」と。

そして、七月十五日しちがつごじふご日にち、目連むつれんさまはお釈迦しやくか様にいわれたとおり大供養会だいくやうかいを営いみました。

この功德くふとくにより永とこきにわたり餓鬼界がきがいの苦くるしみを受けていた目連むつれんさまの母ははや、そこにいた住人ぢゆうじんも救すくわれたのです。「私の父母ふぼが救すくわれたのは、多くの僧そうたちの不思議ふしぎな力ちからによるものです。では未来みらいの仏ぶつの弟子でしたちで、親おやに仕つかえ孝こ心の誠まことを尽つくくす人ひとたちもまた、盂蘭盆うらぼんの供養くようを報むかじて生なまみの父母ふぼ、あるいは七世しちせいの父母ふぼを救すくい出だそうと思おもうと思おもいます。救すくうことができるでしょうか」と尋たずねられます。

お釈迦しやくか様は「親おやを慈あはしみ誠まことを尽つくくそうとする人ひとたちは皆みな、生なまみの父母ふぼ、過去こくわ七代しちだいの父母ふぼのため、毎年まいねん七月十五日しちがつごじふご日にちに飲食物いんじきじを供たえ、仏ぶつならび僧そうに施たしをもつて盂蘭盆会うらぼんかいの法会ほふかいを営いみなさい。そうすれば過去こくわ七代しちだいの父母ふぼも、餓鬼がきの苦くるしみみから逃にれ、天上てんじやうに生まれ変わる事ができるであろう。そして今いまも健在けんざいである父母ふぼの寿命じゆめいも延のびて病やまむこともなく、一切いっけつの苦惱くるなうも除のけられるであろう。おまえたちを養やしない育ててくれた父母ふぼの恩おんに報むかいなさい。仏ぶつの弟子でしたらんとする者は皆みな、等ひとししくこの教くわえを守まもらなければならぬ。」と説とけられました。

この教くわえにより盂蘭盆うらぼんの行ぎょうじ事が始はじまりました。お盆ぼんの行ぎょうじ事は、インド、中国ちゆうごく、朝鮮半島ちやうせんはんとうを経て、様々さまざまなその時代じだいや風土ふうど、風習ふうじゆにより、期間きかんや営いむ方法くわうほうも異いなつております。しかし、その原点げんてんとなる孝こ心の想おもいは同じおなじであつたはずです。日蓮大聖人にっれんたいせいじんも、「盂蘭盆御書うらぼんごしよ」の中に、法華経ほふくわきやうとお題目おんがくの功德くふとくと合あわせてお盆ぼんの尊そんさを説とかれておられます。

今いま、改めてこのお盆ぼんの功德くふとくと意義いぎを考え、そして、子孫こそんに伝えていく為ためにも、「私わがたちのお盆ぼん」を営いみたく存ぞんじます。

(続きあり)

## 〈法筵寺〉お盆の行事について（平成23年度）

法筵寺ではお盆の行事を「お寺」と「ご家庭」に分けて行っています。

### 一、お寺において営まれるお盆の行事について

孟蘭盆会施餓鬼法要・本堂にて法要

- ▼ 平成23年7月3日（日）午後一時より、本堂にて営みます。（申込用紙は別にあります）
- ▼ 施餓鬼法要は文字通り、亡き方々へはもちろんの事、生きている方にもご供養することが大切なことです。亡き方々へは「塔婆供養・とうばくよう」を捧げ、生きている方々には「施食供養・せじきくよう」を行います。この功德を手向けるために厳粛なる法要を、皆さんとご一緒に営みます。それぞれ「塔婆供養」「施食供養」をお願い致します。

- ▼ 初盆＝本年、初めてのお盆を迎える亡き霊位（平成22年7月盆会より平成23年7月盆会前に亡くなられた方）に対し、初盆供養（卒塔婆供養）として一座設けて行います。特に、ご親族やご友人にも、初盆としての塔婆供養を受け付めますので、お申し込み下さい。個別にご案内をお送りします。

法筵寺墓苑回向・お墓参り

- ▼ 法筵寺墓苑にて、各家墓地のお盆のご回向を営みます。（平成23年7月9日へ土曜日）午前9時より）精霊送り法要はございません。

- ▼ 一般的に「精霊送り」は、供物などを、海や川へお流しをしたり、お寺へ納めていましたが、当山では立地条件や環境問題を考慮し、お盆のお飾りの形式を変えていくことにより（後述）、お寺での「精霊送り」を行いません。精霊棚やマコモ等もお引き受けできませんのでご了承下さい。尚、ご家庭での、「迎え火」「送り火」等は可能な方はお続け下さい。

### 二、ご家庭におけるお盆の行事について

営む日について・お盆報恩追善の日

- ▼ 七月、又は八月の十三、十四、十五日の三日間をお盆の期間としていますが、ご家族で営まれることに意義がありますので、あえてこの三日間にとらわれず、七、八月の二カ月間の内、ご家族が揃って集える日に「お盆報恩追善の日」として営んで頂けますようお願いいたします。特に、初盆を迎えられます家など、ご親族が一同に集まることにより亡き方へのご供養になります。

お飾りについて・お祀りの仕方

- ▼ お盆報恩追善の日は、ご仏壇の前に皆さんの感謝や真心がこもった手作りのお供え物をご用意して下さい。法筵寺住職、もしくは弟子が伺い皆さんと共に読経ご回向を行います。
- ▼ お飾りについては、従来、市販のマコモなどを用いましたが使用せず、変わりにご家庭にある最高の器を用いるなど創意工夫しお供えをして頂きお飾りします。亡き方々へ最大最上の思いを心掛けて行うことです。又、ご回向後はご家族皆さんでそのお供えを頂いて下さい。尚、この方法を行うことで「精霊送り」の行事は行いません。

孟蘭盆回向訪問について・お盆棚経

- ▼ 「お盆報恩追善の日」を、各ご家庭で決めて頂き、その日時に伺います。
- ▼ 希望の日時を指定されない場合は、従来通り、もしくは当山の都合にて伺います。（予めご案内します）

法筵寺では、形骸化していくお盆の行事を後世にどのようなように伝え残すべきかと、平成十年より試行錯誤しながら現在の方法を行っております。勿論、今まで通り続けてこられた方には、良い習慣もたくさんありますのでそれらの行事はお続け下さい。ご不明な点、ご質問などは〓〇五二・六九一・〇二七〇〓

